

在学生の声



総合生存学館(思修館)5年

横山 泰三 さん  
Yokoyama Taizo

学問と実践を架橋する挑戦へ

2 年間の会社勤務の後、大阪で引きこもりの若者を支えるNPOの設立に関わりました。当事者中心の自助グループでした。活動に携わる中で、社会課題の解決には、限られた分野だけでなく「総合的な知」とそれに基づく実践が必要だと感じました。思修館の「八思」という思想、現場重視の方針は、まさに自分が求めるものだと思います。入学を決めました。

4年次には、カンボジアで8カ月間の実践活動を経験しました。国連開発計画(UNDP)で自然資源管理の政策分析に携わり、政策立案側の縦割り制度の弊害と、住民自身が声を上げる「自助」の重要性を痛感。それは、自助グループが内外と対話を積み上げながら、課題解決につなげていくという、自身の問題関心と重なるものでした。

思修館に集う多様なバックグラウンドを持つ学生との議論や海外でのさまざまな活動を通じた出会いは、かけがえない財産です。ここは自分自身を大きく成長させてくれる場だと感じています。



京都大学大学院

総合生存学館(思修館)

POINT

- 国際機関や卒業生同士の人脈
- 現場から課題を考える機会
- 学域を越えた視点の獲得

大学・大学院情報

- 京都府京都市
- 修士(総合学術)、博士(総合学術)
- 53.58万円(改定の可能性あり)
- 20人
- あり



School Data

〒606-8501  
京都市左京区吉田中阿達町1  
東一条館1階  
TEL 075-762-2001  
Email info.shishukan@mail2.  
adm.kyoto-u.ac.jp



教授  
の  
声

Q. 授業や学生の様子は?

授業では、国際機関や省庁、企業の第一線で活躍する人々と議論したり、企業に向いて学んだり、「現場主義」を徹底しており、知識習得とともに、ロールモデルとなる人々に出会う場となっています。

4年次に海外で行う約1年間の“武者修行”は、学生自ら国際機関などと交渉して派遣先を決定します。教授陣の人脈を生かして最低限の環境整備はしますが、主体は学生です。5年次には、“PBR”として独自に資金を調達してシンポジウムを開いたり、企業や官公庁との協働プロジェクトを実施したりして研究を進展させます。

Q. どんな進路を目指す人に向いているの?

「グローバルな課題に挑みたい」「地球社会の発展に貢献したい」という強い意志を持つ学生に来てほしいですね。学生が目指す進路は、国際機関や官公庁だけでなく、政治家、起業家など多様です。思修館ではとにかく、やりたいことに真剣に向き合い、5年間で自らの進路を切り開いていくのです。

総合生存学館(思修館)  
櫻井 繁樹 教授  
Sakurai Shigeki



専門は地球環境問題を含む資源・エネルギー政策。経済産業省などを経て、母校京都大学の教授に就任

イチオシ

“サービスマーケティング”と“武者修行”



1~2年次のサービスマーケティングでは、福祉や国際協力などの現場に赴き、実際の視点で課題解決を考える。4年次の武者修行では、現場を管轄する立場から、政策や方針などの仕組み作りを学ぶ。

国際協力現場での実践力を鍛える

世界で活躍できるグローバルリーダーの輩出を目的に、2013年に開設された総合生存学館の特徴は、5年一貫で設計された大学院博士課程のプログラム(2年間で修士号の取得も可能)。講義だけでなく、1~2年次には「サービスマーケティング」として国内外でボランティア活動を行う。さらに、3~5年次には提携する国際機関や国際NGOなどで実務を学ぶ「武者修行」に加えて、PBR(プロジェクト型研究)に半年以上取り組み、調査や政策立案、プロジェクトの実施交渉、成果発表などに挑戦する。

さらに、そうした経験を理論化することで、自分の研究テーマの課題に対する解決策を生み出しながら実践力を磨く。派遣先の団体や国際機関で生まれた人脈が、修了後の進路につながることも少なくない。

総合生存学館では「熟議」と「八思」と呼ぶユニークな授業がある。熟議とは、リーダーの考え方を学ぶもので、財界や官界、国際機関などの各界をけん引する人々を講師に迎えて講義と議論を行うセミナーだ。一方、八思とは分野を超えて地球規模の課題に取り組む人材の育成を目指すもので、学生は「医薬・生命」「人文・哲学」など8分野の科目群(八思)から自身の専門以外の分野・科目を履修することになる。こうした広範にわたる実践的な学びを通じて学生の視野を広げながら、グローバルリーダーとしての意識を育てている。